

◆ 心からの「ありがとう」 ◆

主将のバットが空を切った。1点差……。しかしながらこの1点は遠かった。高校野球選手権大会準々決勝。2回戦以降を苦しみながらも勝ち進んできた本校野球部だったが、とうとう敗退した。

COVID-19に翻弄されたこの1年半近くの間、昨年度は大会自体が中止になるような度重なる危機的状況もあったけれど、今夏は無事大会開催にこぎ着けた。1戦1戦、それこそこれまでの鬱憤を晴らすかのような試合運びでここまでコマを進めてきた。

思い起こせば昨年4月、着任早々グラウンドに足を運び、君たちの元気のいいあいさつを受けた。その翌日だったろうか、突然の全国一斉の臨時休業。学校が再び動き出した後、君たちはうれしそうに練習に励んでいたね。遠くからでもわかる元気なあいさつ。廊下で一番大きな声を響かせていた君たちは、学校に欠かすことができない大きなエネルギーを与えてくれた。

数多くの学校行事においても、君たちは一所懸命、盛り上げ役を引き受けた。球技会、体育祭、マラソン大会、そしてつい先月実施した2年ぶりの文化祭。一目でそれとわかる君たちは、笑顔での無観客のパフォーマンス。その様子を見てとても切なくなってしまったことは、この前のこの紙面でも書かせてもらった。

この大会。多くの保護者の皆さん、そしてOBが試合ごとに球場に駆けつけてくださった。

「校長先生、一緒に甲子園に行きましょう！」 その言葉がとてもありがたかった。

試合後、主将から感謝のあいさつ。保護者の皆さんの後ろで聞いたその言葉は、試合直後であったにもかかわらず、後輩たちへの思いもこもった、温かくそしてとてもしっかりしたものだった。

夏空をバックに彼らが球場を去って行く。お疲れ様。そして心から「ありがとう」……

